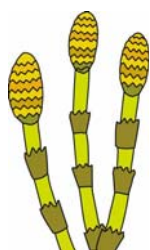




＜赤岳の階段設置＞



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	字遊字感	8
Monthly Repo ならやま	2	海外ボランティア活動体験記―I	9
里山の今（パト・景観）	3	豆知識	10
月例研修会（大仏鉄道）レポ	4	新ならやま投句箱	11
シイタケイベント・レポ	5	行事案内・ひとやすみ	12
コメリ受賞報告、きのこだより	6	幹事会報告・編集後記	13
私の最近の興味	7		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

オミクロン株の感染スピードになかなか対策が追い付かず、全国的な感染拡大はいまだに収束の兆しが見えない。医療体制が圧迫され死亡者数も増加傾向にある。さりとて3回目のワクチン接種が急がれるのみで特段に有効な対策も見いだせず、それぞれに自己責任のもとで社会活動が営まれている。ならやま活動は屋外でもあり、マスク、三密回避などの感染対策を再徹底することで継続しているが、くれぐれも会員の皆さんがご自身を取り巻く環境を正しくとらえて、無理のないご参加をいただくようお願いしたい。

ならやまでは BC 前の階段が完成。「古都に広がる里山の彩り」プランによって里山林へのエントランス・学びの森も整備され、「ならやま大地号」、「ようこそモンキー」とともに子供たちを迎えてのイベントに楽しみが増えた。東池の整備を含む水路整備も大詰め段階にある。今年度の竹林整備もほぼ目途が立った。実りの森ではキウイの棚づくりが進む。

生き物が動き出す季節はもうすぐである。みんな春を迎える準備に忙しい。

一方、鹿の侵入が増加しており、対策に知恵を絞らなければならない。

3月の活動特記事項

協働活動：3月3日 シイタケ菌打ち、コナラ・クヌギの植樹、アダプトプログラム

新入会員歓迎会：3月31日

3月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	シイタケ菌打ち・植樹、薪割り、里山林内整備 ユート：アカマツの森間伐木の整備
エコファーム	春野菜畑整備・種まき（ジャガイモ、ゴボウ、ニンジン、ナス、ホウレンソウ、カボチャ、トマト、ゴーヤ）、芋畑整備、チップ入れ
景観	草刈り場整地作業、養蜂巣箱の整備 ビオ：東池改修、西池・水路改修、ハス池整備 花：山野草園草取り・施肥
パトロール	新1～3コースパトロール、観察路整備（丸太階段補修その他）、樹木銘板更新 春の観察会
果樹	キウイ棚作り、落葉利用のコンポスト作り、寒肥

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報（NHKTV 奈良 19時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日にも同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

冨井 忠雄

1月27日(木)曇り 60名

先週より少し穏やかな気候だが、オミクロン株が近畿一円で増えており、参加者は60名と少なかった。会長より各自危機感を持って3密を避け、マスクを着用して活動すること、濃厚接触者は10日間の外出禁止とし、陽性者が出た場合には当会も10日間活動を中止するとの話があった。本日より昼の賄いを休止する。2月のシイタケ菌打ちイベント、月例研修会は行う予定で参加者の募集を行う。里山Gは楢木の作成と枝木の整備、薪棚の補修。エコGは鹿対策ネット張り、野菜の収穫など。景観Gはならやま大通り側の竹林整備。花班はジャーマンアイリスの草引き。ビオ班は西池の点検補修。パトGは3コースパトロール、エントランス広場花壇新設、BC階段新設工事。果樹Gは、梅の剪定、サクランゴ畑の排水溝整備。

2月3日(木)曇り 53名

奈良県においてもオミクロン株の感染が増え、参加者が少なくなった。協働活動は里山Gが中心となって、全員でシイタケイベント向けの植樹用の穴掘りを行う。BC階段新設工事が完成し、皆さんで渡り初めを行う。紅葉の森の木道沿いにバラスを敷く。里山Gはイベント用植樹の穴掘りと銘板作成。エコGは畑のチップ入れ、大根など野菜の収穫。景観Gはならやま大通り側の竹林整備。花班はサイクリングロード沿い花壇の草取り。ビオ班は東池の西側土手に土のうを積む為の基礎造り。パトロールGはエ



ントランス広場花壇に花苗植込み、赤岳の丸太階段設置。果樹Gはレモンなどに寒肥を。B地区の車進入路整備など。

2月11日(金)10日雨のため振替日 40名

会長より2月4日にリモートでのコメリ助成金贈呈式表彰式参加の報告があった。

協働活動で東池用土のうを100個作り、



積み上げる。希望者による雛人形づくりを2月24日に行う案内があった。里山Gでチェーンソー使用中に軽微な事故があった。

里山Gはイベント用植樹地への真砂土の運搬、楢木の作成など。景観Gはならやま大通り側の竹林整備。花班はサイクリングロード沿いの花壇の植え替え。

ビオトープ班は東池水路の整備、東池の土のう積み。パトロールGは3コースパトロール、丸太階段設置など。果樹Gは梅などの寒肥と、テント倉庫の組み立てなど。

2月17日(木)晴れ 57名

今日は寒い中、57名の参加があった。チェーンソーの事故報告があり、これを警鐘と受け止めて、各グループで安全対策を再確認するようにとの話があった。

先週に続き協働活動として東池用の土のう作りを行い、その後、有志で東池西側に土のうを積み上げた。里山Gはイベントのための遊びの森準備、楢木の作成など。ユートピアクラブは伐倒樹木の処理。エコGはビニールハウスの作成と野菜の収穫など。景観Gは竹林整備。花班は山野草園の草取りなど。ビオ班は東池の土のう積み、ビオエリアの掃除など。パトロールGは新3コースパトロール、BCの看板作り。果樹Gは鹿除柵の設置、ブルーベリーの鳥よけネットの除去など。

パトロール G

里山の今

景 観 G

◆寒い中にも・・・

山本 美智子

私事ながら、昨年7月に手術を受けホルモン剤療法と抗がん剤治療で、現在に至っています。周りの皆さまの心遣いや励ましをいただき10月から少しずつ参加できるようになりました。寒いながらも日差しに恵まれ、風を塞いでくれる木々の中は暖かく、落ち葉の重なった観察路は足裏に心地よい。

まず、足元の小さな「ヤブコウジ」(別名十両)10 cmほどの身体にしっかり赤い実をつけている。風にそよいで音をたてるからの命名「ソヨゴ」が、見上げる先で、赤い柄に赤い実をぶら下げていた。わずかな日の中「アオキ」がルビーのような輝きの指先ほどの大きな実をつけている。少し行くと葉っぱだけの「アオキ」が育っている。「アオキ」は、雌木、雄木が揃っているのも興味深い。更に「フユイチゴ」の群生。プックリと熟した実は柔らかく、ソツとつまむ。甘い。高く伸びた「クチナシ」。オレンジの口の締まった実が枝先に多数。6月の花の頃は馥郁とした香りに、包まれた事だろう。最後に、立派になった「センリョウ」に合う。上むきのどの枝にも赤い鮮やかな実が満載。5、6年前には、柵をして保護していたが、こぼれ種で大きくなった株もあり、立派に育って目立ってくると、喜びと共に別の心配も過ぎってしまう・・・

「キノコ」に詳しいメンバーが仲間入りした事で「キノコ」無知の私は今、興味津々。先日、コナラの倒木に食用可の「ヒラタケ」が、ニョキョ、ニョキョ。前以て、教えてもらっていたとはいえ、実際に目にした時は、感動でした。少し採取して、味噌汁に入れ試食。食感良く、まずまずの味。「キノコ」まず名前を知る事から。

新しい観察の対象が加わる嬉しさ。無理をせず、皆さまと力を合わせることが出来ますように。私を元気にしてくれる「ならやまの人と自然」に深く感謝です。

◆草刈りの思い出

内河 洋文

「しばらくは 離れて暮らそう コとロとナ
次ぎ逢ふ時は 君という字に」(タナカサダユキ)
昨年末我が家の厳しい感染対策は緩和の兆しがあった。残念ながら、今年に入ってあっという間に第六波、疲れる対策は続いている。

“非日常も常態化すればそれは日常である”

いま三度目の木曜日「ならやま」活動参加を自主的に自粛している。週一度の「ならやま」での活動が出来ないことはやはり淋しい。

この原稿依頼が来た時、当会に入った新人時代の事を懐かしく思い出した。

某月某日：刈払機での草刈りは初めてだぞ。自分に出来るかな？ 大丈夫や、教えて貰ったから。あれっ、エンジンが掛からない…。あっそうかこのポッチを押して燃料を送り込むのだった。「あー、まてまて」「何、君たち今日が初めて?」「よしよし、ワシが基本を教えてやろう」

厳しくも親切なご指導のお陰で、今日まで事故もなく活動出来ている。H氏に感謝です。

某月某日：疲れたあ。やっと、終礼の時間だ。
「草刈りの新人さん、大切な花を雑草と一緒に刈り取らないでちょうだい」ええっ、新人っておいらの事。花なんて見なかったけどなあ。しようがない、これから気を付けよう。

某月某日：「こらこら、あぶないよ。“斜面の草刈りは下から上へ”が基本だよ」Sさん、ご指導ありがとうございます。

最近では自走式の草刈機2台のお陰で、作業も捗り大変助かっているが、時々これでいいのかなあと思う。まあそれはそれで仕方ないか。少ない人数で、まして、若くないのだから。

現在、景観Gは人手不足です。ビオトープも花班も人が足りません。ぜひ景観Gに入ってください、一緒に里山を守っていきませんか。皆さんのご加入を心からお待ちしております。

月例研修会レポ

人呼んで「幻の大仏鉄道の跡」を巡る

田中 善英

2月8日(火曜日)9時40分「大仏鉄道を巡る」と銘打った研修会に参加するため、総勢20名が「JR 大和路線 加茂駅」に集合した。加茂駅は明治31年、伊賀上野駅を結ぶ関西鉄道の駅として開業した。そして明治32年に路線が奈良市法蓮町にあった「大仏駅」まで延長され、この加茂駅—大仏駅間の路線が「大仏鉄道」と名付けられた。そして、加茂駅は「大仏鉄道」の始発駅になった。



「大仏鉄道に思いを馳せながら全員で記念撮影をした後、始発駅の加茂駅を出発。

まず、近くのランプ小屋へ行って、「なんでランプ小屋なんだ」という質問。昔は機関車のランプは灯油を燃やしていて、この小屋は燃料の石油の貯蔵施設という説明で納得。



現在、大和路線になっている線路の横を歩く。途中で蒸気機関車(C57)の横を通過。動輪が3つの貴

婦人と呼ばれた機関車だという。

今回、「歴史を感じるコース」を選択して町の



中の家並みを眺めながら歩く。風もなく、時折、日差しもあって、ワイワイ歩く。浄瑠璃寺の丁塚

を経て、夜遊び地蔵のあるお寺で小休止。少し歩いて、代表的な遺構「観音寺橋台」に到着。この遺構の後ろに現在のJR大和路線の線路がある。みんなで列車の通過を待って、記念写真をパチリ。成功。

観音寺小橋台を見ながら、歩き続け、次に鹿



背山橋台に到着。この橋台は下に小川が流れ、また堅固な石積みの橋台で、遺構の中でも人気の

スポットとのこと。ワイワイいいながら写真を撮り、小休止。加茂駅からこの橋台付近まで、大仏鉄道は関西線と平行に走っていたらしい。この付近から、関西線はトンネルに入るが、大仏鉄道は山の起伏にそって上っていく。



大仏鉄道の線路の跡地(もちろん線路はない)と思われる道を約1km歩いて、やっと次

の遺構である「梶ヶ谷隧道」に到着。下半分が石積み、上半分とアーチ部分はレンガ造りになっていて、レンガはイギリス様式の積み方とのこと。上を見ながら隧道を向こう側に抜ける。それから、すぐ近くの赤橋の下を抜けて、大仏鉄道公園に到着し、昼食となった。

12時40分 昼食を終えて、鹿背山城趾に向かって出発。ここで大仏鉄道とは別れ、戦国時代の山城地区の最大の山城の跡を目指す。



小さな集落の風景を楽しみながら西念寺(標高70m)に到着し、一気に鹿背山城趾(標高135m)まで登り切る。全員で登り切り、記念撮影。主郭から北西側の眺めを堪能して下山し、15時前にJR木津駅に到着。天気に恵まれ、



運動不足を解消。楽しい研修会になった。

シイタケイベント レポ

有元 康人

雨が心配されたシイタケイベントは、2月19日、気温は低くとも風は無く、体感的には活動に適した環境で行われました。

児童17名、保護者14名、参加者スタッフ6名、会員スタッフ23名の合計60名が参加しました。

朝8時30分集合でしたが、当会スタッフは、朝早くから来て、会場のカンバンや旗の設置、ヘルメットの準備等を行い、参加者を待ちました。

9時前から開会式を行い、千載会長の挨拶、太田副会長の司会進行で、注意事項の説明、特にコロナに対しての感染予防や手洗い、アルコールによる除菌等の説明を行いました。

次に参加者を3班に振り分け、①シイタケ菌打ち、②コナラ植樹、③里山遊びの活動内容とイベントのスケジュールを説明して、9時15分イベント開始。

活動時間と移動、休憩を1部構成(1時間)とし、3部構成で活動が進みました。

各々の会場で会員スタッフによる、イベントの詳細説明。

シイタケイベントでは、初めての菌打ちに興味津々、木槌を初めて持つ子もいましたが、すぐに慣れ、どんどん櫓木が作られていきました。



コナラの植樹も、協働作業で掘られた穴に、親子でコナラの苗木を植えて、支柱を建て、氏名を記入した銘板をかけて植樹の完成。子供たちは、慣れない手で重い掛矢(カケヤ)を持ち、支柱を打ち込んでいました。



里山遊びでは、子供たちは、丸太渡り、ブランコ、木登りなど、最初は戸惑っていましたが、すぐに慣れて、歓声を上げて遊具に取り組んでいました。

高い所が苦手な子も、雰囲気飲み込まれたのか、親御さんも驚くほど高い所に挑戦していました。



最後に閉会式、千載会長が閉会の挨拶を行い、参加者から楽しかったという言葉をもらい、シイタケイベントが終了しました。

このイベントがコロナの影響を受けず、雨の心配も乗り越えて、無事故で終了できたこと、スタッフ一同喜んでいます。

コメリ緑育成財団

特別賞受賞報告

千載 輝重

去る2月4日、コメリ緑育成財団による2022年度の助成金贈呈式が日航ホテル新潟で開催され、最後まで躊躇しましたが、新型コロナ感染爆発状況に鑑み、やむなくオンラインで参加しました。当会の紹介発表の機会をいただき、朝8:30からリハーサル。本番の贈呈式は10:30~11:30の短時間で行われました。

コメリ緑育成財団捧雄一郎理事長(株式会社コメリ社長)の挨拶、財団の活動紹介に続き、団体代表一人一人に目録の贈呈が行われました。対象団体は自然環境保全活動1団体、里と里山保全活動9団体、緑化植栽活動23団体の計33団体でした。

贈呈に続いて、朝からリハーサルしたパワーポイントによる当会の活動を紹介(活動紹介は当会のほか1団体)。その後いよいよ表彰です。

当会は里地里山保全活動の分野での贈呈をいただきましたが、さらに、長年にわたって顕著な功績をあげているとの評価を得て、会場だけが特別賞の栄誉をいただいたのです。後日お届けいただいた表彰状とトロフィーには、生物多

様性保全、景観整備、次世代への継承など全体の活動を通



して「里山の自然に触れる人々を繋ぐその活動は他の模範」と記されています。助成いただく企業・団体の志をきちんと受け止め、敬意と感謝の気持ちをもって期待に応えなければなりません。

日々の地道な活動に自信をもってこれからも邁進したいと思います。



きのこだより

春一番のきのこ

高間 祥子

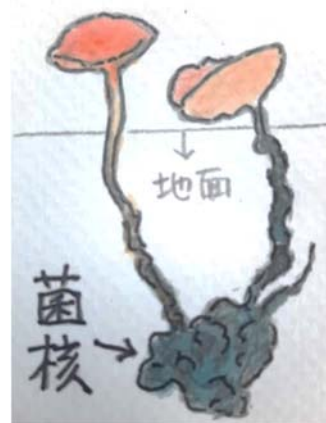
ならやまで見られる、または出そうな、きのこの紹介をさせていただくことになりました。まずはツバキキンカクチャワンタケ(椿菌核茶碗茸)。

初春から椿の木の下に発生、傘は茶色で直径0.5~2cm程度、茶碗型の小さなきのこです。

前年に落ちた椿の萼片(ガクヘン)や花弁から出ます。地味なきのこですが、一度出た場所では毎年出合えるので、春の使者として人気があります。名前にある「菌核」とは、きのこの本体である「菌糸」が変化して、寒さなど外界の厳しい条件に耐えられるように、黒く硬い塊状になったものをいいます。

地表に椿の落花が積み重なっている所があれば、しゃがんで見てください。棒切れなどで払うと、結構見つかります。庭掃除をサボっている方はご自宅でも見

られるかもしれません。目線の低い小さな子どもはよく見つけてくれるので、一緒に探すのも楽しそうですね。ちなみに毒はないらしいですが、あまりに小さいので、食不適です。



私の最近の興味

足立 勝洋

わたくし、あれやこれやとやってみたい方なので、結構忙しい。ネイチャーならの世界から少しずれますが、暫しお付き合いください。

最近、九州、それも主に九州の北方面への旅行に興味を抱いている。夜の大阪南港から、レジャー用愛車の軽トラをフェリーに載せて、翌朝、新門司または別府着の便がある。それから、九州北部をあちこちドライブしながら、2~4泊したあとの夕刻に今度は、新門司、別府からフェリーの帰り便に載せて、翌朝大阪南港着という旅程である。

勿論物見遊山ではあるが、核心的な（この言葉大げさですが、習近平の真似をして使用するようになってしまった）目的がある。我が国の歴史を巡る現場と博物館への漫遊である。歴史といっても、古代というのであろうか、大和朝廷以前の歴史で、ヒミコの辺りからのことである。ヒミコといえば、その居住地について、大和か九州か、すわまたほかの地かとの論争はまだ続いているのであろうか。わたくし奈良住民としては、少し残念ではあるものの、九州福岡市から太宰府市周辺であったのであろう、というのが、わたくしの現在の理解である。それで、ヒミコの時代から下って7世紀までの間の歴史は、まだまだ解明されていないのである。



(写真：吉野ケ里遺跡の復元された祭りごとの建屋。ヒミコはこんな様子のところで祭事を司っていたのだろうか)

実はその頃は、九州に王朝ができていて、という説にわたくしは大変興味を持ち、そちら方面への旅行やら読書にハマっているのである。九州王朝では、大陸から日本（倭）への当初の仏教・律令の輸入、そして採択もできていた。それらを引き継いで、というか奪取して、本格的に大和朝廷が奈良時代を築いたのは、701年からなのである。ということは、それ以前の、神功皇后の事績、天皇の系譜、聖徳太子の事績、壬申の乱の真相、などなど解き明かされねばならない歴史の謎は多いようである。

わたくしが、こんな歴史の迷路にハマってしまったのは、たまたま出会った「古田史学の会」の会員と思われる方々が開催しているセミナーに参加し、頂戴した書籍も読んでみて、こりゃ面白いワイと、すぐに興味をもったからです。



(写真…これにさらに買い足して、部数が増えている。全部読めますか?)

この会は、今は残念ながら故人の古田武彦氏の活動を支援、継承、発展を目的とした会とのことです。古田氏の想いはただ一つ、『日本古代史を正しい学問で正しく見ようということ、近畿天皇家中心の一元主義史観から、現実の多元主義史観への帰趨である』とのことである。7世紀は、九州・大和（近畿）王朝入り乱れて、錯綜した時代背景であったようで、学校で普通に習ってきた奈良時代前後の歴史（正史だろうか？）を省みて学習し直す必要もあり、大忙しである。

これから先も、コロナ禍のスキを見て、九州方面への探索と、大和周辺への復習旅行に出ることになる。

ならやまへの参加も維持したい。



短歌と俳句

岡田 安弘

『給食で出るのが楽しみ「さよむらさき」の稲刈りをした』。佐保台小5年、山添 葵さんは、ならやまの体験学習を短歌に詠んだ。朝日新聞本紙の歌壇(2021年11月28日)に入選、掲載された。胸騒ぎがする。ネット検索を試みた。母と共に朝日歌壇の常連だった。歌集「サラダ記念日」の俵万智さんのような、現代短歌の旗手に育つ予感がする。

自由律

新聞社の松山支局に勤務した。正岡子規、高浜虚子らを輩出した俳都だ。街のいたる所に投句ポストがある。僕は季語や五七五の約束事がある正統派俳句は苦手だ。種田山頭火や尾崎放哉の自由律俳句に魅かれた。勤務の合間に、自著で山頭火を世に出した郷土史家の大山澄太さん(明治32年-平成6年)宅を訪れ教えを請うた。

放浪と瞑想

『鉄鉢のなかへもあられ』。山頭火は、絶えず食を求めて放浪、松山の一草庵で58歳の生涯を閉じる。山口県の旧家の生まれ。父の放蕩を苦に母が井戸に身投げ、幼い心は深く傷付く。早大を心の病で退学。深酒で身を持ち崩して出家。片や放哉の最後は小豆島の廃寺。享年41歳。文才豊かで中学時代から俳句に親しむ。東京帝大卒、生命保険会社の出世コースに見切りをつけて瞑想の世界へ。『咳をしてもひとり』。

古傷

僕は古い日記をベッドの下に隠している。他人に読まれたくない、そのくせ焼却もできない。布団の入れ替えて、ベッドの底から松山支局時代のデスク日記が出てきた。誰にも消すことができない古傷を書き残している。

記者になったころ、作家の丸谷オーが山頭火の句を素材に短編「横しぐれ」を文芸誌に発表。同僚に教えられて読んだ。主人公の「私」は、

父の昔話を回想。父は道後の茶店で托鉢姿の僧侶に会う。僧侶は「横しぐれですな」と言って立ち去る。山頭火の句『うしろすがたのしぐれてゆくか』へと展開する話に引き込まれた。

▽

後年、松山に転勤。たまたま「横しぐれ」が単行本になった。俳都の読者に向けて、随筆風の紹介記事を受版版に書く。師匠の大山澄太さんから「山頭火が誤解される」と大目玉をくらった。小説の宣伝に山頭火を登場させたことが、お気に召さなかったようだ。

詠み手のリズムを重んじる自由律の精神を生かしたつもりだ。「研究論文ではありません。随筆です」と反論。理解されないまま転勤。デスク日記には「若気の至り」とある。「研究者には遊び心がない」と、師匠に対する不満も述べている。日記は山頭火の句で結んでいた。『どうしようもない私が歩いている』。

直感と予感

僕には短歌を論じる資格はない。ただ、直感・予感には自信がある。仕事が培ってくれたのだろう。記者として、事件の筋を推理する日々と言ってよかった。朝日歌壇常連の母娘の才能を考える時、葵さんの弟、聡介君(小学1年)のデビューも近いと思った。

案の定、朝日歌壇を飾り始めた。さる2月11日、聡介君の1首が朝日新聞の1面「折々のことば」に取り上げられた。『ふうせんが九つとんでいきましたひきざんはいつもちょっとかなしい』。

▽

葵さんの朝日歌壇の入選作はすでに40首。『サンタさん気をつけて来て弟がいっぱい毟をしかけています』(1月23日)。入選作だけで成長をたどる歌集が生まれそうだ。社会現象をおこす予感がする。僕は「ならやまが生んだ歌人」の文言を用意して夢を膨らませている。

海外ボランティア活動体験記ーI



パラグアイ

(1997.4月～2002.3月)

木村 裕

最初の海外ボランティアは
南米のパラグアイで、ブラジル、

アルゼンチン、ボリビアの3カ国に囲まれた海に接していない小さな国でした。どこにあるかわかりますか？ 私も分からなくてあわてて地図で調べました。周りの国が大きいだけで小国といっても面積は406,000 km²で日本の約1.1倍の広さで(人口は約700万人)、かつ山はなく平坦な土地が広がっていて、街を一步でれば道の両側は牧柵ばかりが続いています。

成田からロスアンジェルスを経由してブラジルのサンパウロへ。そこで乗り換えてパラグアイの首都アスンシオンまで約24時間の長旅でした。日本とは13時間の時差です。今日ではアメリカの航空機乗っ取りテロの事件によって直行便はなくなり、すべてアメリカ合衆国へ一度入国しなければならず、より一層遠い国になっています。

5人のメンバーからなるチーム派遣で、パラグアイの日本人移民などの農業者を対象とした野菜栽培の技術支援でした。それゆえ仲間同士は日本語、日系人との会話も日本語でしたが、技術を移転すべき相手はパラグアイ人のため、英語は通じずスペイン語だけの世界です。何か簡単なことを伝えようとしても伝わらず、急遽パラグアイ人の先生につきましたが、何分にも頭はすでに老化しているので四苦八苦。

パラグアイは亜熱帯地域にあり、毎日暑い日が続きますが、冬にあたる7～8月には霜が降りるような寒い日もあります。この国ではお風呂という代物はどこを探してもなく、シャワーのみです。我が家では温水の出る特製のシャワー(一般家庭は水シャワー)がついていましたが、寒い時期はシャワーから一歩離れると寒く

て震え上がり、寝床に直行でした。

パラグアイ人はスペイン人とインディヘナの混血がほとんどで、肌色や体形は日本人によく似ていて違和感はありません。やや太り気味であるのが違いかも。気質は穏やかで、親切で、非常におおらかです。何か物事を頼むと「また明日」とのよい答えが返ってくるのですが、彼らの明日は「そのうちに」くらいの感覚のようで、いくら明日になっても解決しません。日本人的な発想でいるといつまでたっても物事は先に進みません。それでワイフは「彼らはいつもいい加減だ」とプリプリしていました。

パラグアイの首都はアスンシオンで、背の高いビルはあまりありません。飛行機からながめると、赤褐色の屋根瓦とそれを取り囲む緑の木々が連なっています。市内を歩くと街路樹としてミカンの木がたくさん植栽され、ダイダイ色の実もぶら下がっていたのには驚きでした。町の中心にある公園にはよく茂った大きな樹がたくさんあり、太い枝や幹にはアナナスやシダなどの着生植物がいっぱい。持って帰りたい！

公園や街路、大きな屋敷周りには季節ごとに色とりどりの花が咲き乱れて壮観です。早春にはピンク色のラパチョの花(ノウゼンカズラの



ようなラッパ形)が市内いたるところで満開になります。日本のサクラと同じ感じですよ。ついで紫色

のジャカラング、暑くなると黄色の房状の花をぶら下げるゴールドenシャワー、燃えるような赤色の花の花炎樹など次々に咲いて目を楽しませられます。



豆知識

アブラヤシ

木村 裕

アフリカ原産のヤシで、非常に大きくなります。熱帯地方で広く栽培されており、とくにインドネシアとマレーシアでは大々的（プランテーション）に栽培されています。

この樹の実から採れるパーム油は食用油をはじめ、マーガリン、石鹸などの原料として非常に広範囲にわたって活用されています。たぶん皆さんもお世話になっていることでしょう。



アブラヤシはシュロの木を数十倍に拡大したようなでかい樹で、頑丈な団扇状の葉を四方に広げ、成長するにつれて葉は上へ上へと上がってゆきます。東南アジアでの観光ツアーで郊外へ出かけたことがあればお目にかかっていることでしょう。プランテーション（企業栽培）では見渡す限り背の高いヤシ林が広がっています。成木の林では林内は薄暗く



異様な様相を呈します。見方によっては不気味かも。

高い木の上部、葉の間に大きな一抱えもある果実の房？ がいくつもぶら下がります。個々の果実房には数百個からの赤い果実（ソテツの実のよう）がぎっしりとつまっています。そのうえ、長くて鋭い硬いとげが突き出しており、とても手で触れるような代物ではありません。

現地の人は長い棒の先についた刃物で邪魔な葉を除いてから果実を切り落としますが、これが頭の上に落ちたら大けが間違いないでしょう。



最近、このプランテーション栽培は、熱帯林が単一の植生になり、生き物の多様性に悪影響があるということで、環境問題にもなっています。



新ならやま投句箱

俳句

妻逝きて

面影探す

冬の雪

笠井文夫

霜の夜

チップが宿の

芋の種

岡田安弘

(種芋は肥料の山で冬眠している)

コロナ禍を

忘れてフルツ

春一夜

八木順一

芋煮会

トップブランド

そろい踏み

鈴木末一

ならやまに

人活き活きと

冬日和

坂東久平

(冬の日差しに恵まれ、ならやまの人々は楽しそう)

神寂の

三輪の古杉の

淑気かな

古川祐司

(大神神社への初登拝。残念ながら想像の句に)

ワンツースリー

落ち葉妖精

舞踏会

羽尻 嵩

梅を剪る

たわわに実る

時を待ち

豊田治代

奈良に住み

わが人生の

半ばかな

青木芳一

チヨコ摘まみ

畔で団樂

冬うつら

藤原 勲

新ならやま投句箱スタート

俳句・川柳・短歌 気楽に投句を！！

短歌

紅一輪 早く咲けよと 蠟の花

私の番よ 春は任せて

ウグイス

(我が家の庭で隣り合わせの蠟梅と紅梅の会話)

川柳

道ばたに 小さなマスク だれのかな

やまおんな

米寿前 ペースメーカー だけ元気

古川柳司

尾身さんの 御身心配 オミクロン

トラ吉

派閥では 裸の王様 元ソーリ

Wボギー

元気だよ 焚火に集う マスク顔

ゼンちゃん

鬼さんと 一緒に帰れ オミクロン

ハーちゃん

「新ならやま投句箱」

皆様も頭の体操に俳句・短歌・川柳にぜひ挑戦してください。

投稿先 田中善英<and51178nifty.com>

行事案内

新入会員歓迎会

昨年4月から今年3月までに入会された方を対象に以下の要領で行います

◆昼食時間内に行います。よって、各自通常通りの昼食準備をお願いします。

◆日 時：3月31日(木)12時～13時
(雨天順延4月7日)

◆内 容

1. 新入会員の紹介
2. 新入会員歓迎の言葉
3. 新入会員の挨拶
4. 閉会

担当 尾崎、小島、田中(善)

ひとやすみ



hiro

人間の五感には、視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚とあるが、人によってどれを重視するかは違うと思う。そして、その五感が昔の記憶を呼び戻すこともあるのではないかな？

ある人が「ヒサカキ」の花の匂いがしてくると、春一番を感じ、子どもの頃の遊びを思い出すと話していた。

臭覚は知らなければ気が付かない感覚の一つだと思う。私自身、今は存在しない築300年だった母の田舎の家へ行ったとき、感じた匂いを覚えている。その匂いはならやまの焚き火に似ていた。良くも悪くも清潔・安全・便利な世の中で、焚き火の匂いも絶滅危惧かもしれない。

私の中に降り積もった記憶を思い出しつつ、コーヒーの香りを楽しんだ。そして少し悲しい気持ちになった。

4月 月例会 信貴山朝護孫子寺 信貴山城跡の桜を見る

富井 忠雄

今春はコロナ禍の中、余り密にならないように、信貴山朝護孫子寺、信貴山城跡に行きます。霊峰信貴山は古来より「信じるべき、貴ぶべき山」とされ、聖徳太子が物部守屋征伐の時、戦勝を祈願し、日本で最初に毘沙門天を感得した聖地です。このお寺には、国宝「信貴山縁起絵巻」があり、本堂真下には、「如意宝珠」に触れると一願成就の利益があるとされる戒壇巡りなど出来ます。また本堂舞台から桜の海に浮かぶ堂宇を見渡たせます。その後信貴山城跡に登り、昼食と花見を予定しています。なお、信貴山観光ガイドにより案内をしてもらう予定です。

【実施要領】

1. 日 時：4月5日(火) 予備日11日
2. 集 合：JR王寺駅東側改札口前9時
3. 雨天の場合：申し合わせ60%以上延期
4. 行程：JR王寺駅北口バス9:20→信貴山門9:43→信貴山観光Iセンター→信貴山朝護孫子寺(ガイド付)→多宝塔→信貴山城跡(空鉢護法堂)→松永屋敷跡(昼食)→信貴山門14:59バス→JR王寺駅15:22着予定(走行距離約4km)
5. 持ち物：弁当、飲物、敷物、ストック
6. 会費：飲食・拝観料¥1000(バス代各自)
7. 世話人：青木、戸田、富井
8. 連絡・申込み：富井忠雄



2022年2月度幹事会報告

日時：1月25日(火) 10:00～12:00

I 全体報告事項

コロナ感染について：活動参加者の中で陽性・濃厚接触者が発生した場合は会の活動を10日間休止する

II 会計、総務部より

- ・会員動向：159名
- ・会計報告：収入、支出それぞれ報告あり
- ・各G来期予算2/15までに提出を
- ・各G活動報告、来年度の活動計画も2月中に

III 活動・行事関係

*ならやまプロジェクト関係

- ・2/3 協働活動：植樹用の穴掘り50カ所
- ・賄いのみそ汁提供は当面の間休止する

IV 企画、助成金事業案件

- ・図録集：A5版製本1000冊を予定
- ・記念誌：次世代への絆の記事内容を追加
- ・各種助成金、交付金事業、それぞれ説明あり

V 喫緊、提案事項

- ・幹事改選：新幹事候補の絞り込み方法は会長・副会長で方法を相談し諮る
- ・GGプログラム・椎茸イベント：公開で実施
- ・新入会員歓迎会：3/24実施予定
- ・新春講演会&懇親会は中止
- 20周年記念祝賀会は4月/初.中に実施

VI 広報、関係

- ・3月号編成内容報告
- ・会報誌をカラーで見ってもらうためにPDFでの配信を試行する
- ・自然教室、月例研修会：年間計画表は3月号に同封する

VII 報告、連絡事項、その他

- ・2/8 月例研修会：大仏鉄道 予定通り実施
- ・3/7 自然教室

以上

次回幹事会2月22日(火) 中部公民館4階



気温の上昇とともに、草花も虫も鳥も活発に動いているようになった。

皆さんは、知らない植物や昆虫に出合ったとき、何を考えるだろう。まずは「きれい!」「何かな?」「気持ち悪い」「毒がある?」「刺さない?」色々と思い、その次は「何という名前か」と反応する。

何故名前を知りたいのか考えてみた。判れば安心して、次に見たとき、人に教えてあげられると思うのか? また出合うため、名前を憶えておいて、情報があれば観察に行くのか? 私の場合はなんだろう。よく考えてみると、どれでもなかった。

一瞬の出合いに心が和み、名前を知らなくてもただ見るだけで楽しかった。

一般的に人間に害がある生き物は、嫌われ駆除される。でもそれは、人間が地球号という船の船長だと思っているからだ。

同じ地球号の仲間として、良くも悪くも共生できればと思う。

4月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動(木)

7日 協働活動日

*月例研修会：4/5(火) 信貴山(花見)

会員動向(敬称略)

<退会者>

1/29 石田 隆久

1/29 石田とし子

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎・千載・田中(善)・戸田・豊田・増田

表紙写真：赤岳の階段設置 パトロールGにより赤岳に安全な階段ができました。